

社会科学学習指導案

単元名 情報を生かすわたしたち ～尾道はもう大丈夫じゃけえ～

第5学年1組 男子14名 女子12名 計26名 指導者：黒田 剛弘

1 日時 平成30年12月3日（月）～12月17日（月）

2 場所 第5学年1組教室

3 研修テーマ 小学校社会科における社会的事象の意味を多角的に考えさせる授業構成の工夫
— 自己の考えを複数の立場や意見を踏まえ修正・再構成する対話を通して —

4 研修テーマとのかかわり

「情報の取り扱い」について児童一人一人が多角的に考えることができるよう、児童の思考をマインドマップにより可視化させ、社会的事象の意味を考えさせるようにする。

自己の考えを他者の立場や考えを踏まえて修正・再構成する際、他者からの意見を受け、自己の考えを見直すことが求められる。しかし、他者の意見を理解し、自己の考えを見直すことができない児童もいる。そのような児童のために、他者の意見を受けてから、自己の考えを見直すまでの間にどのような思考が必要になるかという過程を明らかにする必要がある。この思考過程で重要なことは立場を基に考えることである。立場を基に対話をするすることで、他者から自己の立場に対して「自己の足りないところ」「考えてほしいところ」という期待を受ける。この期待を推測し、立場を修正・再構成する過程が思考過程である。立場を修正・再構成することにより、立場の解釈が最初と違ってくるため、考え方も変わってくる。つまり、他者の立場や意見を踏まえた考えになるということである。

そこで、本単元では上記の理論を取り入れ、「被災者」「尾道市民」「飲食店経営者」「お土産屋経営者」の立場から「情報」について考えるようにする。それぞれの立場から意見を出し合い、ワークシートを基に相手の立場期待を考え、自己の立場を修正・再構成する。そうすることで、他者の立場や考えを踏まえた立場となり、その立場から再度「情報」について考えることで、他者の立場や考えを踏まえた考えをもつことができ、多角的に社会的事象の意味を考えることができるようになると思う。

5 本単元で育成する本校の資質・能力

- 「つながる知識」…個別の事象の意味をつなぎ、社会的事象の意味を多角的に考えることができるよう、対話を取り入れ、様々な立場から話し合い、社会的事象の意味を考えることができるようにする。
- 「かかわる力」…全ての児童に立場を与え、自己の立場から考えることで、全ての児童が対話に参加できるようにするとともに、相手の意見を受け入れることができるようマインドマップを用いて考えるようにする。

6 本単元観

○学習指導要領（平成20年告示）のねらい

（3）我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり。

○学習指導要領（平成29年告示）のねらい

（4）我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（イ）大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（イ）情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす立場を考え、表現すること。

○社会的事象の意味

大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な扱いが必要である。

○社会的な見方・考え方

住んでいる地域の状況（位置）や、情報による観光客の変化（事象や人々の相互関係）に着目し、様々な立場から考えた情報の意味を比較したり、自分たちの生活と関係付けたりし、情報の取り扱いについて考える。

○単元観

①本単元における社会的事象の意味

小学校学習指導要領（平成 20 年告示）に「イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり」とあるように、情報と自分たちの生活や産業とのかかわりについて考えさせることをねらいとしている。「かかわり」について考えると、近年、多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集・発信し、それらを活用することで産業が変化し発展しており、国民の生活も向上していることが挙げられる。

また、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編では、「不確かな情報や誤った情報が広がることによって、風評被害などが生じ、関係者の人権等が著しく侵害されることがあることにも触れるようにする。」と示されており、活用することが必ずしも産業の発展につながるのではなく、情報が活用されるがゆえに、産業が被害を受ける場合もあることを児童に学ばせる必要がある。

例えば、ある事件・事故・環境汚染・災害が大々的に報道されることによって、本来『安全』とされる食品・商品・土地を人々が危険視し、消費や観光をやめることによって経済的被害が引き起こされる。このことを「風評被害」という。この原因は、現代はだれもがメディアの影響を受けざるを得ない「情報過多社会」であることが考えられる。そして、人々が事実に対して安全か危険かについて判断するための情報が少なく、科学的な説明が理解できない状況であり、直接観察できない事柄の事故・汚染・災害について「安全」と言われても、多くの人々には、それを判断するすべがないからである。また、「自粛」や「遠慮」の気持ちで訪れないということもある。つまり、事故・環境汚染などに関する情報の少なさ、信頼性などが問題となっている。逆に言うと、事件・事故・環境汚染・災害などに関する情報をより多く知ることにより、安全か、危険かということを判断することができれば、風評被害は起きないということになる。ほかに、風評被害の原因として「旅行代理店システム」、「団体旅行の企画者心理」等が挙げられるが、今回は情報のことに注目する。

このように、情報により産業が発展することもあるが、被害を受ける時もある。ここで重要になるのがメディアリテラシーである。中橋雄（2013）はメディアリテラシーを「①メディアの意味と特性を理解したうえで、②受け手として情報を読み解き、③送り手として情報を表現・発信するとともに、④メディアの在り方を考え、行動していくことができる能力」と定義している。このように、情報と国民生活とのかかわりは、情報の適切な取り扱いも理解させることが大切である。

そこで、本単元の社会的事象（情報）の意味を「様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な扱いが必要である」とし、風評被害を題材にすることで、「産業の発展」「国民生活の向上」「適切な情報の取り扱い」について多角的に理解させることができると考える。

②風評被害における「産業の発展」「国民生活の向上」「適切な情報の取り扱い」について

本単元における風評被害は「平成 30 年 7 月豪雨」のニュースである。ニュースの報道について虚報はほとんどなかった。

このニュースにおける国民生活の向上とは、被災者の復興である。被災者にとって必要な情報とは、「生活物資の入手に関する情報」「住居に関する情報」「ライフラインに関する情報」「交通に関する情報」「医療や福祉サービスに関する情報」「経済的な支援に関する情報」など多岐にわたる。このような情報をニュースなどから被災者は得ることができている。特に、テレビ放送では「L 字放送」により、ニュース番組以外でも情報を得ることができるようになっていた。

一方で、尾道市への観光客は減った。ある程度災害復興を果たしたのちも観光客の数は戻っていない。ホテルのキャンセルが 12 万件、千光寺公園への観光客も、11 月の観光シーズンでも昨年（平成 29 年）の 8 割程度の人しか訪れていない。広島県全体の観光業の被害額として 45 億円（広島県調べ）に及ぶといわれている。一般社団法人「しまなみジャパン」の 7 月 12 日調べによると、しまなみ海道のサイクリングロードは全線復旧しているが、レンタサイクル利用数は 440 台と、前年同期 2300 台と比べ大きく落ち込んでいる。これは、大阪より東の地域に住んでいる人が報道により、広島県全体が被害を受けて大変だと思っているからだと考えられている（尾道観光協会調べ）。このような状況に対して、尾道観光協会は 8 月 13 日に YouTube で「尾道はもう元気じゃけえ!!」という観光紹介の動画を投稿している。これは、「平成 30 年 7 月の西日本豪雨の風評被害を払拭するために制作」と説明している。このように、ニュースなどの情報により、産業が衰退するとともに、他の情報を活用することにより、産業を発展させようとしている。

そこで児童が、ニュースのように国民を助ける情報が逆に産業を衰退させてしまう「情報」の要否について話し合うことで、産業が衰退してしまう（観光客が減る）理由として、情報不足だからだということに気づき、情報は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な扱いが必要であると考えられることができるであろう。

また、本単元の「産業の発展」とは「尾道の観光業の復興」であり、「国民生活の向上」とは、「被災者の復興」、そして、「適切な情報の取り扱い」とは、「ニュースの情報も含め、様々な情報媒体からの情報収集」とし、学習を進めていくことで、児童は本単元の社会的事象の意味を「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な扱いが必要である」と考えることができる。

7 児童観

レディネステスト等に関する実態

レディネステストの結果は下の表1のとおりである。

自分用の携帯電話やスマートフォンを持っているか	はい…50%		いいえ…50%	
通信ゲームを使い、友達とやり取りをしたことがあるか	はい…73%		いいえ…27%	
1週間でどれくらい、家でインターネットを使うか	ほぼ毎日…38%	3日から5日…0%	2, 3日…23%	ほとんど使わない…38%
分からないことを調べる時、1番よく使う手段は何か	辞書 12%	図鑑 0%	インターネット 15%	家の人 69% 教科書 4%
インターネットを使うとき、気をつけていることはあるか	ある…38%		ない…62%	

表1 情報についてのレディネステスト

本校の児童は携帯電話・スマートフォンを持っている児童が半数、携帯型ゲーム等で友達とやり取りをしている経験を持つ児童が73%、1週間で1日以上インターネットを使っている児童が61%という結果から、ほとんどの児童が何らかの形でインターネットを普段の生活で使っているということが分かる。しかし、その方法が、情報を得るためというより、楽しむために使っているということも分かる。

そして、情報を得る手段として、「家の人に聞く」という方法が圧倒的に多いことから、児童は情報を得るための手段が偏っているということが分かる。

また、インターネットを使うとき、メディアリテラシーや情報モラルを意識している児童は、38%と少ない。この結果から、インターネットを使うことができる児童は多いが、情報に潜む危険性は知らない児童が多いということが考えられる。

つまり、児童にとって情報を一つの視点からに手に入れることの危うさに気付いている児童はほとんどおらず、また、メディアリテラシーや情報モラルが身についている児童も少ない。そして、インターネットを活用することで生活が便利になっていると実感できている児童も少ないということが考えられる。

多角的に社会的事象の意味を考えることができるかに関してのレディネステストは図1・2・3、結果は表2のとおりである。



テストではないので、思ったことをそのまま書いてね。

黒田先生からのちょうせん問題

5年 番 名前 ()

- 資料1を見て「日本はこのまま魚を輸入すべき」ということについてあなたは賛成ですか、反対ですか。また、その理由を書きましょう。

- 資料2のAさん、Bくん、Cくんの考えを読んで、漁業の輸入はどうしていったらよいか、あなたの考えを書きましょう。

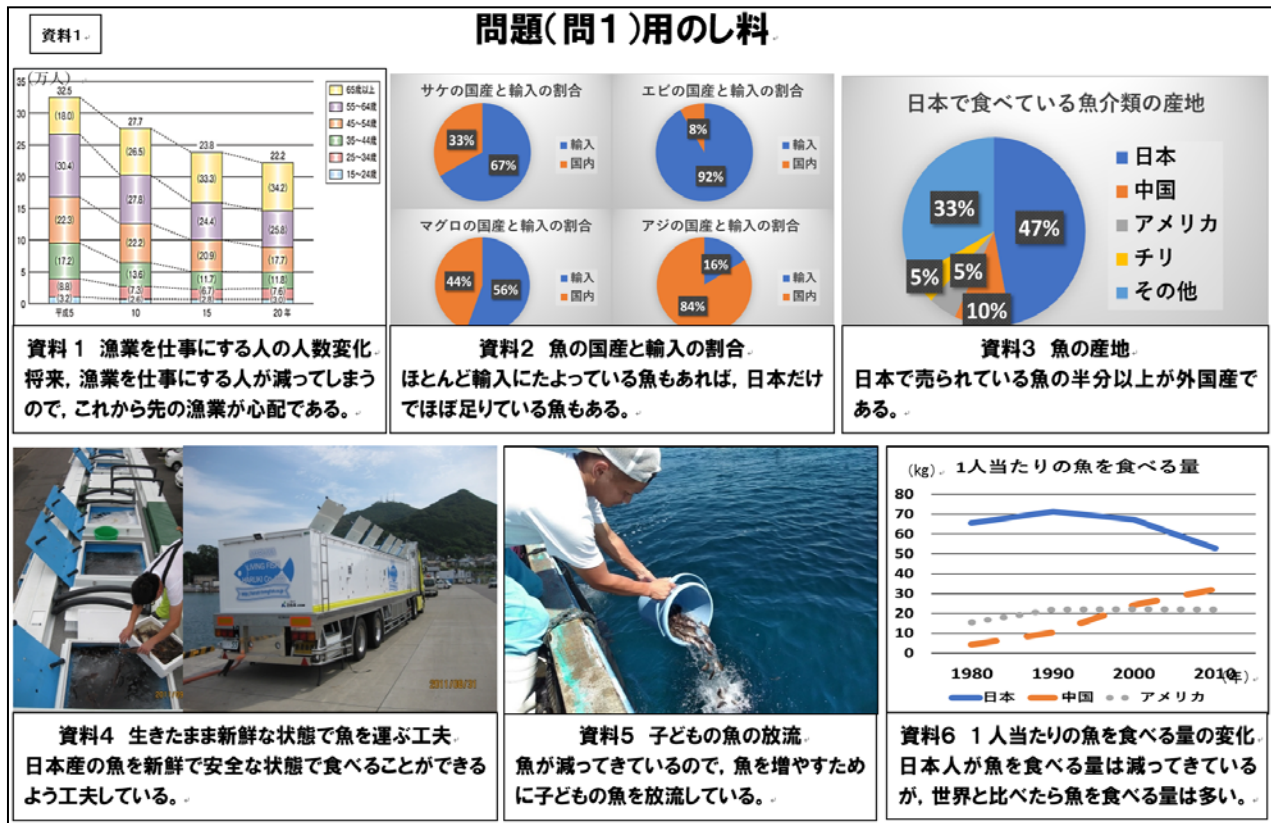


図2

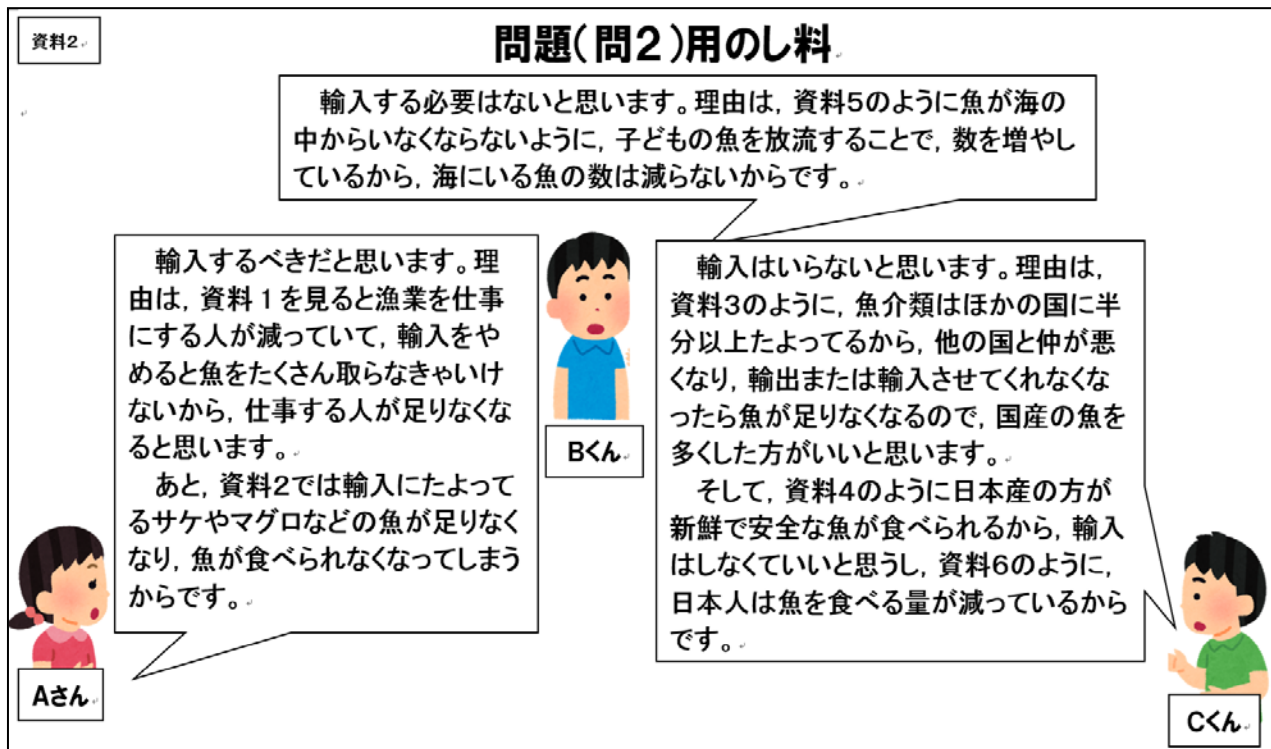


図3

	問 1	問 2
「労働者の減少」「輸入量の問題」「食料の安心安全」「食の変化」の4つの視点で書かれている。	0 %	8 %
「労働者の減少」「輸入量の問題」「食料の安心安全」「食の変化」のうち、2つ以上4つ未満の視点で書かれている	3 1 %	3 5 %
「労働者の減少」「輸入量の問題」「食料の安心安全」「食の変化」のうち、1つ以下の視点で書かれている。	6 9 %	5 7 %

表2

この結果から、多角的に考えることができる児童は少ないことが分かる。解答を見ても、問1では自分の考えのもとになっている資料を1つしか選んでいない児童が多数見られた。また、問2でも、3人の意見のうち、1人の意見しか反映していない、自分と同じ考えを持つ人の意見を取り入れるといった解答が目立っていた。このように、自分の意見にあった人の意見しか取り入れない、多数の資料や考えを用意されていても、多角的に考えることはできていないことが分かる。

話し合い活動に関して、「授業では、他の人と話し合うことで、自分の意見をよくしようとしている」というアンケートに対して、「できる」と回答している児童は15%、「授業で、他の人と話し合うことで、自分の意見も他の人の意見も大切に、自分の意見を考え直している」というアンケートに対して、「できる」と回答している児童は27%となっており、ほとんどの児童は、友達の意見を聞くだけ、または、自己の意見を言うだけにとどまるグループ学習が進められているという課題があることが分かる。

8 指導観

①社会的事象の意味を多角的に考えさせるための工夫

・多角的に社会的事象の意味を考えるための対話場面について

対話場面で大切な点は、他者の考えと自己の考えのどこが違うのかを考え、そして、他者の立場や考えを踏まえ、自己の考えを修正・再構成するという点である。

そこで対話場面では、事前に自己の立場についてマインドマップを作成し、自己の立場はどのような立場なのか考えをまとめさせる。ここで作成するマインドマップは、中心のメインテーマ、そして、そこから派生するサブテーマまでは教師が指定する。これは、児童に立場を与えるので、児童が自由に考えて作成するのではなく、決められた人の立場に立って考えるという設定で行うためである。

そして、事前に作成したマインドマップを基に社会的事象の意味を考える。この考えを基に児童同士の対話を行う。

ある程度対話をしたのち、他者の立場についてマインドマップに書き、立場の修正・再構成を行う。自己の立場の解釈に付け加えた方が良くと思うキーワードに印をつけることにより、自己の立場を修正・再構成させる。

このように立場の解釈をマインドマップによって可視化し、立場を修正・再構成すれば、立場の解釈が最初と異なるものになり、考えも自然と変わっていく。つまり、他者の立場や考えを踏まえ、自己の考えを修正・再構成することができ、社会的事象を多角的にとらえることにつながっていくことができる。

・多角的に社会的事象を考えさせるための立場について

児童全員に社会的事象を多角的に考えさせるためには、相手の立場や考えを踏まえた考えになるように指導しなければならない。そこで相手の立場や考えを踏まえることができるように、児童全員に立場を与え、立場を基にして対話を行わせる。以下に本単元でどのような立場を児童に持たせるか説明する。

本単元の社会的事象「情報化した社会の様子と国民生活のかかわり」をとらえるための視点は、「産業の発展」「国民生活の向上」「情報の適切な取り扱い」の3点が必要である。そして、全ての児童に多角的に考えさせるために、対話により自己の考えを複数の立場や考えを踏まえ修正・再構成する過程が必要である。そのため、「産業の発展」「国民生活の向上」「情報の適切な取り扱い」について考えることができる立場を用意する必要がある。

そこで、本単元では、「豪雨災害の時の報道は必要か」について賛成派の立場として「被災者の方」「尾道市民の方」、反対派の立場として「飲食店員の方」「お土産屋店員の方」の立場を用意する。本来ならば、「飲食店員の方」でも、被災している場合など、立場が重なっている事象が起こりうるが、本単元では、重なりはないものとして扱い、児童には重なる場合があることは伝える。

「被災者の方」の立場からニュースについて考えると、ニュースは情報収集、そして情報発信に欠かせないものである。被災者の方が収集する情報は主に「生活物資の入手に関する情報」「住居に関する情報」「ライフラインに関する情報」「交通に関する情報」「医療や福祉サービスに関する情報」「経済的な支援に関する情報」が挙げられる。また、情報発信は、全国の視聴者に現状を知ってもらうことにより、寄付やボランティアを募ることができる。このように、「被災者の方」の立場から考えることにより、「国民生活の向上」の視点から考えることができる。これは「尾道市民の方」の立場の児童も同じことが言える。被災はしていないが、ニュースにより通勤等で使う「交通に関する情報」や断水等の「ライフラインに関する情報」などの情報を入手することができるため、「国民生活の向上」の視点から情報について考えることができる。

「飲食店員の方」「お土産屋の方」の立場から情報について考えると、大量の情報がメディアから流れることにより、不特定多数の人に「広島県全体が危険だ」「広島県は被災している」「広島県は困っている人がたくさんいる」という印象を与える。しかも、今回は大きな災害であるため常時「L字放送」で被災状況や救済情報などがメディアから流れている。しかし、実際には7月12日には、しまなみ海道のブルーラインと呼ばれるサイクリングロードは全線復旧しており、観光客がこられるようになっている。それにもかかわらず、観光客数は11月でも8割程度までしか回復していない。自然災害だからしょうがない、早く生活が元に戻ればよいという思いがありつつも、やはり報道により観光客の数が減ってしまい、店への客足が遠のき、経営が悪化した。県内の宿泊施設のキャンセルが約12万件、観光への影響額は推計45億円に上るとされている。このように「産業の発展」の視点から今回の災害報道を見ると、報道により風評被害を受けていると考えることができる。そのため、「産業の発展」という視点から、情報について考えることができる。

そして最後に「情報の適切な取り扱い」については、賛成派、反対派が話し合うことで、正しい情

報であっても、それを必要としている人もいれば、被害を受ける人がいることに気付かせ、立場を修正・再構成させることにより、被害を受ける原因が一般の人々の情報不足によるものだということに気付くことができ、「情報の適切な取り扱い」の視点から考えることができるようになると思われる。このような思考過程を図1・2に示す。

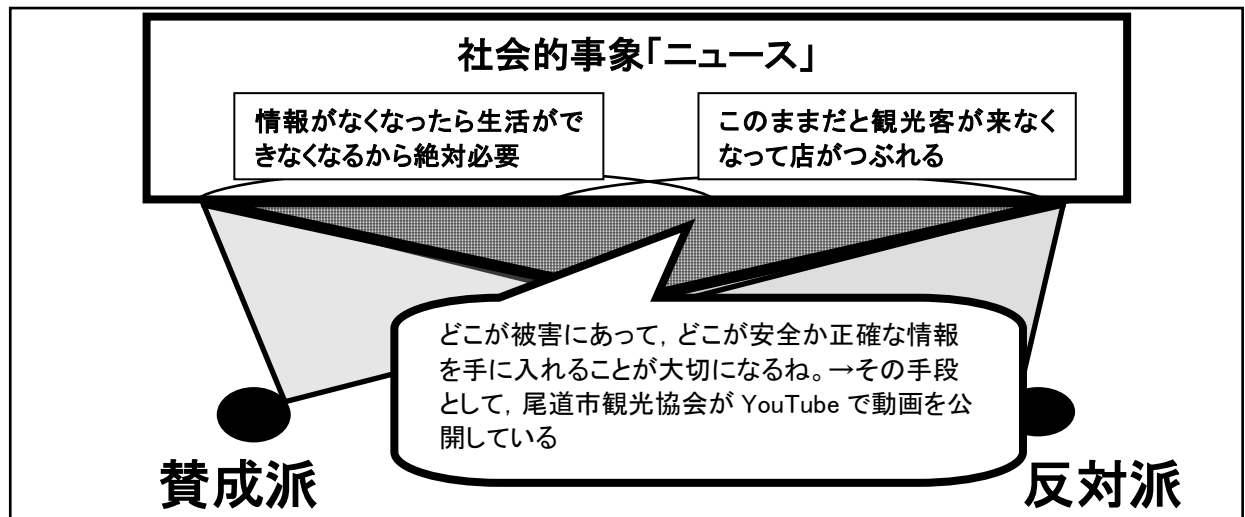


図4 対話場面での予想される児童の立場の再構成における思考過程

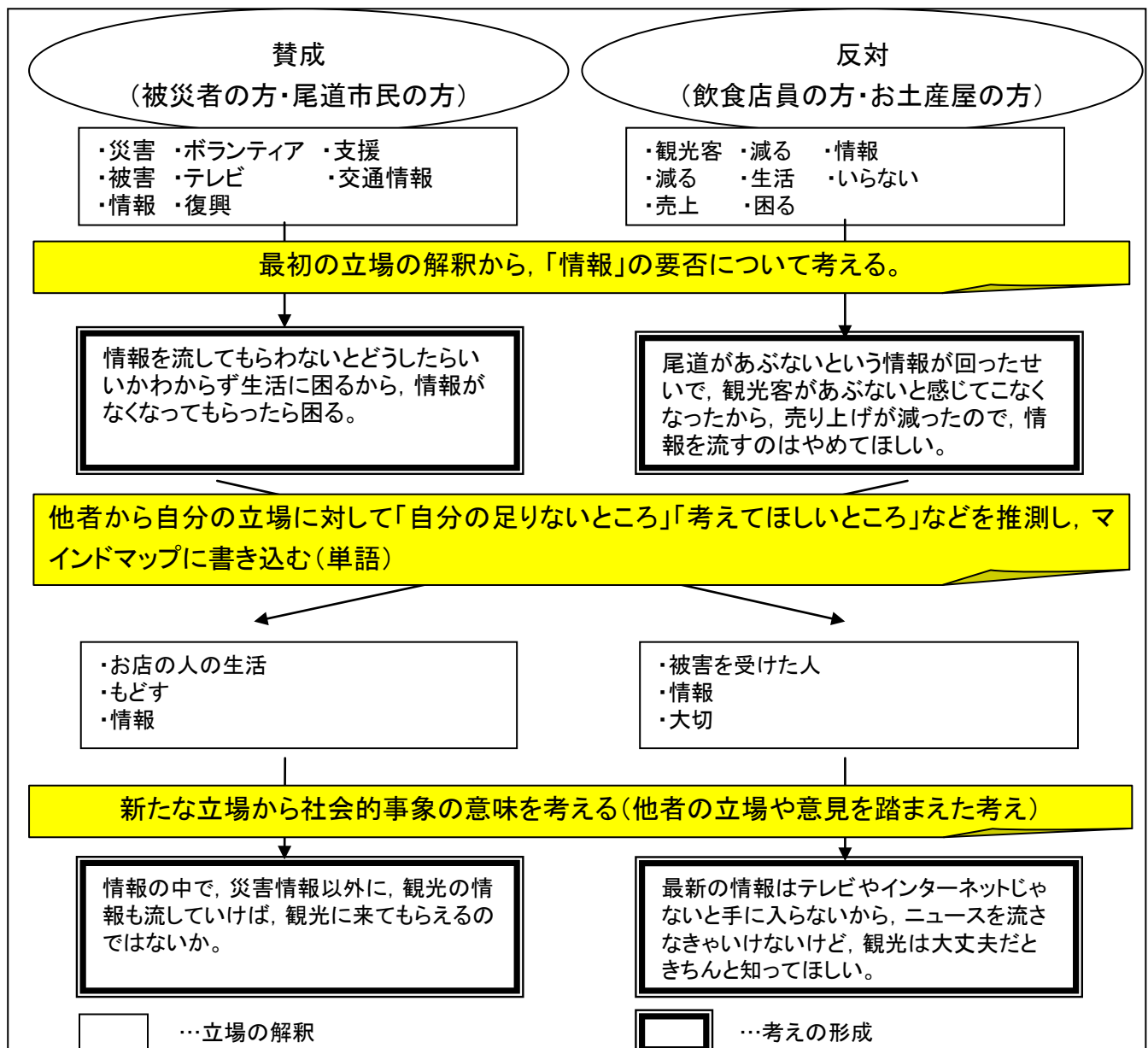
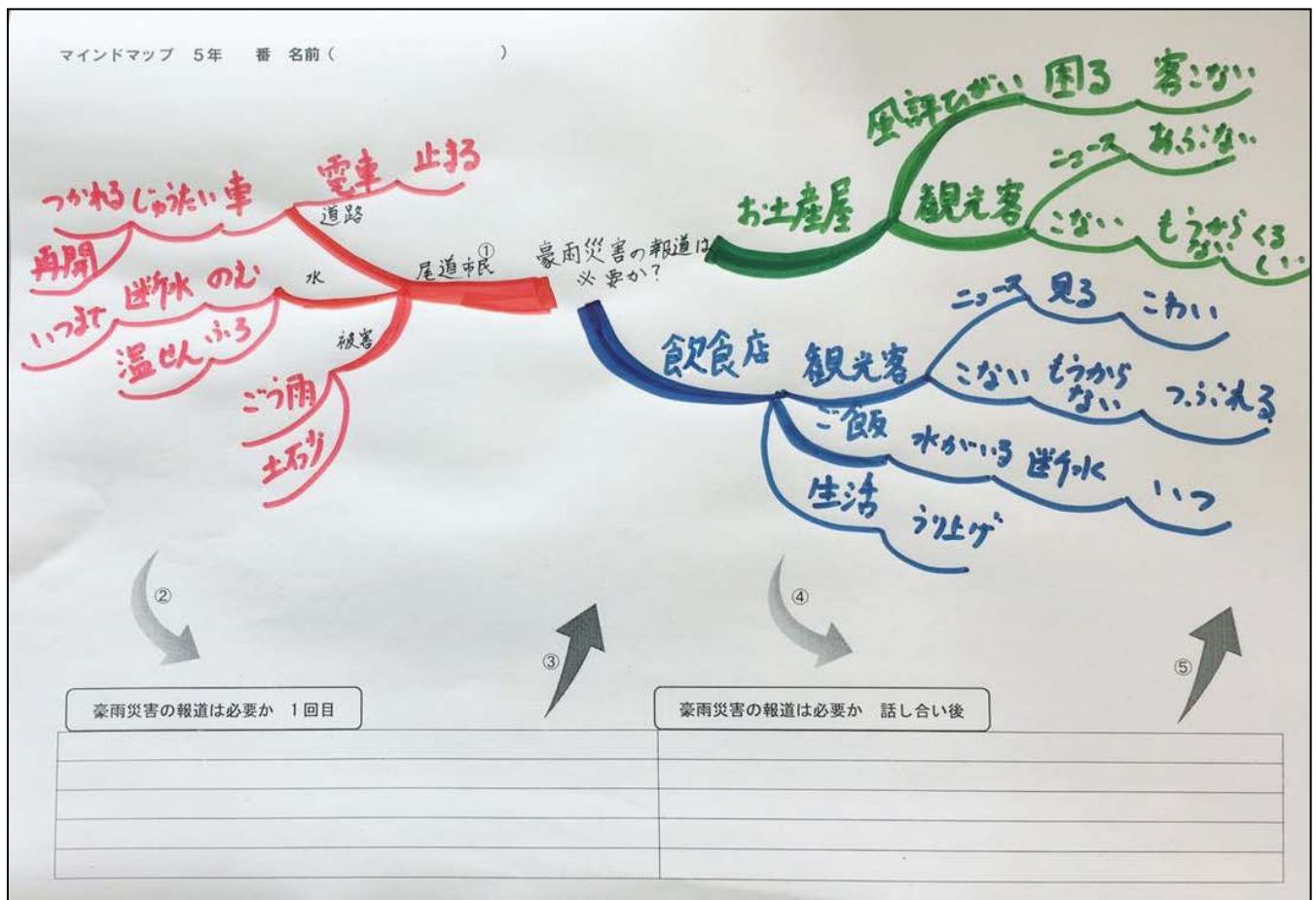


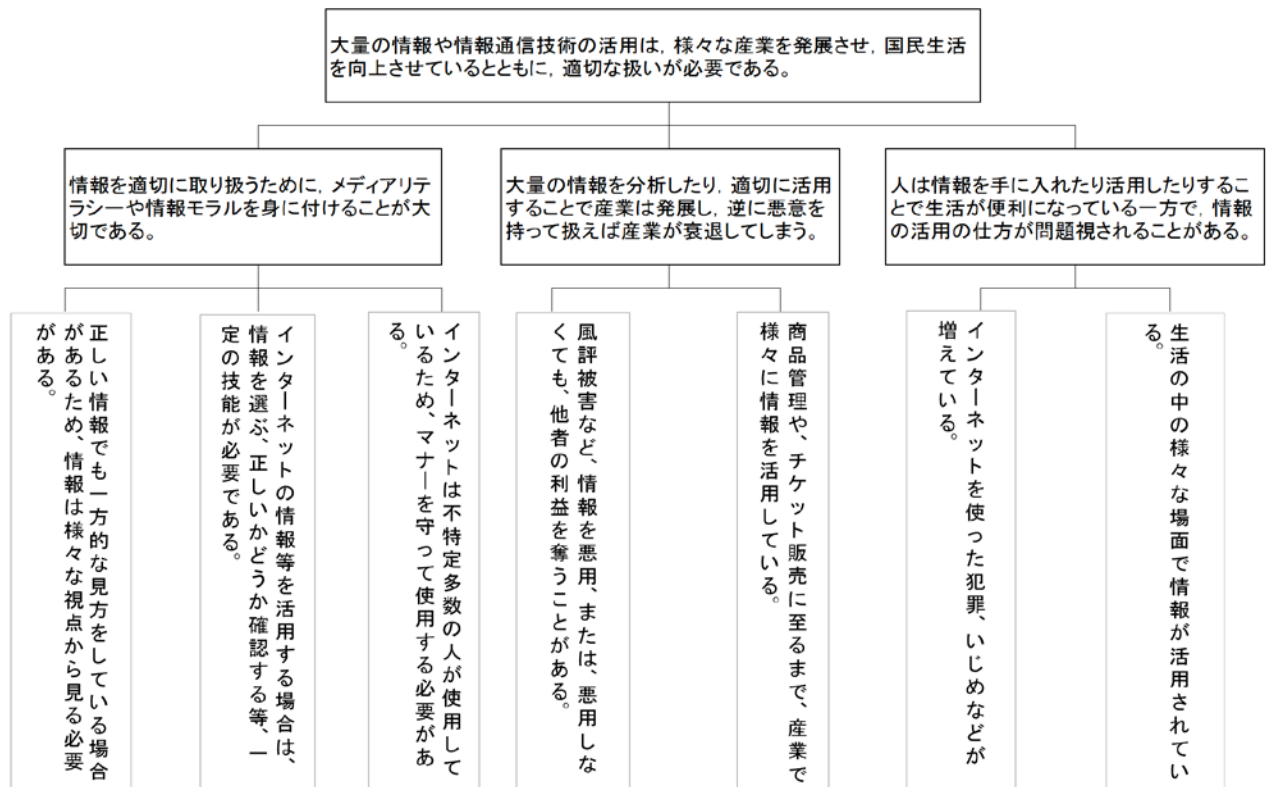
図5 5時間目の対話場面での予想される児童の思考過程

②自己の考えを複数の立場や意見を踏まえ修正・再構成するためのワークシート

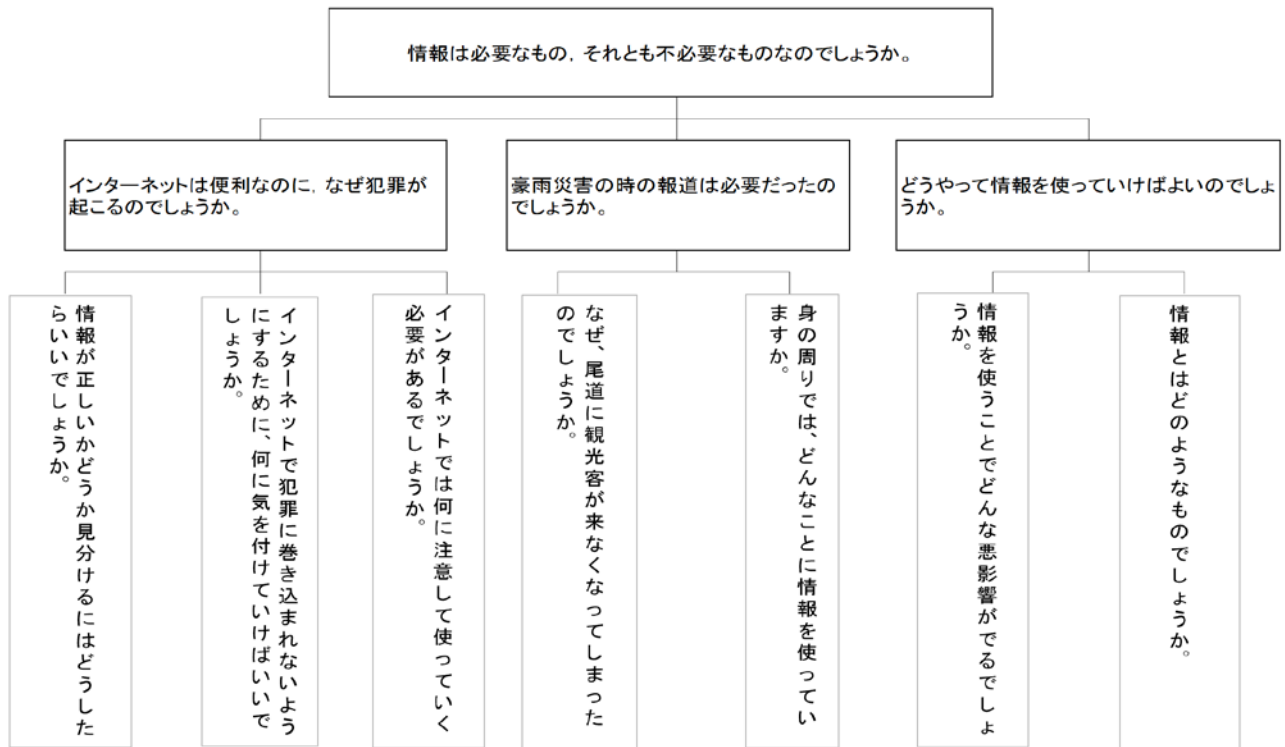
児童が対話により、「自己に足りないところ」「考えてほしいこと」等、他の立場を担う児童が自己の立場に対して期待していることを予想し、自己の立場が大切になっていること、こだわっていることなどを修正・再構成し、新たな考えを生み出すために、下の図のようなワークシートを用いて児童の思考過程を補助する。



9 知識の構造図



10 問いの構造図



11 単元目標

○情報に囲まれた生活に関心を持ち、その利点や問題点、有効な活用方法について意欲的に調べたり、話し合いに参加しようとしたりすることができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

○日常生活における情報活用の在り方について、「産業の発展」「国民生活の向上」「適切な取り扱い」の観点から考え、表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

○情報源が何を伝えようとして情報を発信しているのか、映像や、画像から読み取ることができる。

【観察・資料活用の技能】

○大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な取り扱いが必要であることを理解することができる。

【社会的事象についての知識・理解】

12 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	- 情報の取り扱いについて関心を持ち、情報の要否に関する話し合いに積極的に参加し、自己の考えをもとうとしている。 - 自己の生活や学習の中での情報の活用の仕方を振り返り、情報を有効に活用しようとしている。
社会的な思考・判断・表現	情報の取り扱いについて、「産業の発展」「国民生活の向上」「情報の適切な取り扱い」の観点から多角的に考え、表現している。
観察・資料活用の技能	報道の画像や映像を見ることで、それぞれの報道が何を伝えようとしているのか考えることができる。
社会的事象についての知識・理解	大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な取り扱いが必要であることを理解している。

13 学習指導計画（全6時間）

次	時	学習活動（○）・児童の気づき（・）	・指導の工夫	学習活動の評価規準 （評価方法） 資質・能力の評価
一	1	課題の設定 ○「尾道はもう元気じゃけえ」の2つの動画を見て、何が伝わってきたか話を出し合う。 ・おいしいものがたくさんある ・観光名所がたくさんある ○情報について知識を出し合い、知識があいまいなことに気付く。 ・テレビのニュース ・インターネットで知ることができる事	・この学習の最後にもう一度見ることを告げる。 ・おそらく児童は情報は知識関係のことだと考えているだろうから、月ごとの欠席者数のグラフを出し、分析させることでデータも情報であることに気付かせる。 ・自己に関わることも「個人情報」であることを理解させる。 （例：暗証番号、住所等）	生活の中にある情報に興味をもち、情報の要否について自分なりの考えをもつことができる。 （ノート・発表） 自分の経験と問われていることをつなげて、考えることができる。 【つながる知識】
		単元を貫く問い 情報って必要なもの？不必要なもの？ ○情報を良い面と悪い面に分類する。	・良い面も悪い面もあることに気付かせることによって、情報の必要性について、児童の思いを揺さぶる。	
	2・3	情報の収集 ○インターネットでできる事を考える。 ・情報の発信（メール、ホームページ、LINE等） ・情報の受け取り（ニュース、検索、ゲーム、住所） インターネットは便利なのになぜ、犯罪が起こるのだろうか？ ○実際に体験をし、インターネットの便利さ、怖さに気付く。 ○なぜ、犯罪が起こるのか、被害を受ける人がいるのかを考え、メディアリテラシー、情報モラルの大切さに気付く。 ・誰でも見ることができるから ・誰か分からないから	・情報の受け取りでは、調べ学習をした時のことを思い出すとともに、情報の発信はあまり体験したことがない児童が多いため、実際に体験をさせる。 ・掲示板や、ホームページ、住所など、一度掲載したら消すことは容易ではないことを体験する。 ・自分で犯罪を防ぐことも大切であることをにも気付かせる。 （暗証番号、怪しいものはクリックしない、情報を発信する時はよく確認をする等）	情報モラル・メディアリテラシーについて理解し、適切な情報の活用の仕方を身に付け、情報の取り扱い時には、正しく判断することができる。 （行動観察・ノート・発表） 学んだことを、実際にインターネット活用時に生かすことができる。 【つながる知識】
二	1	情報の収集 ○7月の災害時の情報がなぜ流されたのか考え、情報の利害について気付く。 ・水の情報や、交通情報が分かって、普段の生活がなんとかできた。 ・ニュースを見ることで、ボランティアの人がたくさん来てくれた。	・L字放送で毎日のように報道されていたこと、ボランティアがたくさん来たこと等を思い出させ、情報によって救われた人や、生活に必要な情報を得ることができたことに気付かせる。	報道の画像や映像から、どのような影響が出ているのか考えることができる。 （ノート・発表）

	○災害後、土産店、飲食店、レンタルサイクルなどの売り上げが落ちている理由について考える。 ・復旧後も怖くて来れないんじゃないかな。 ・その情報は全部、ニュースなどでほかの人に伝わっているんだね。	・おそらく児童は、災害の影響で客が来ることができないと考えるので、しまなみ海道が復旧したのちも観光客は来ていないことを伝え、報道による風評被害があることを理解させる。	
	豪雨災害の報道は本当に必要だったのか？ ○情報が事実でも被害を受けてしまう人がある。報道は必要なのか判断する。 ・必要だと思います。だって、被災者は情報がないと生活できないもん。 ・でも、情報のせいでお店がつぶれてしまったらその人も生活できないよ。	・自由に考えさせる。	
2	整理・分析 豪雨災害の報道は本当に必要だったのか、それぞれの立場になって考えよう。 ○「被災者の方」「尾道市民の方」「お土産屋の方」「飲食店店員の方」の立場についてマインドマップにまとめる。 ○マインドマップにまとめた立場から「豪雨災害の報道は必要か」について考えをまとめる。 ・被災者にとって被害情報がないと、生活支援の情報が手に入らないし、ボランティアが来てくれないから困る。 ・お土産屋さんにとっては、被害情報により、観光客が来なくなるから、売り上げが減り、生活ができなくなる。	・メインテーマ（立場）サブテーマまでは、こちらで設定し、それ以降を児童に書かせる。 ・立場からそれていないか机間指導で確認していく。	それぞれの立場から、「産業の発展」「国民生活の向上」「情報の適切な取り扱い」という視点で、報道の在り方について考えることができる。（ワークシート）
3	まとめ・創造・表現 対話 豪雨災害の報道は必要か話し合い、解決しよう。 ○「情報は必要か」について対立しているから、解決策を考える。 ○尾道観光協会の方のインタビュー動画を見る。 ○「尾道はもう元気じゃけえ」の動画をもう一度見て、感じたことを交流する。	※話し合いの詳細は図2を参照されたい。 ・どのようなことを知ってほしかったのか、などを聞くことにより、ニュースの報道だけでなく、様々な情報を手に入れて考えることが大切であることを感じられるようにしたい。 ・児童も様々な情報を得ることで、感じ方が変わったということに気付かせる。	大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な取り扱いが必要であることを理解している。（ワークシート・発表） 他者と対話し、自己の考えを修正・再構成することができる。 【かかわる力】

本時の目標：生活の中にある情報に興味をもち、情報の要否について自分なりの考えをもつことができる。
【社会的事象への関心・意欲・態度】

○社会的な見方・考え方

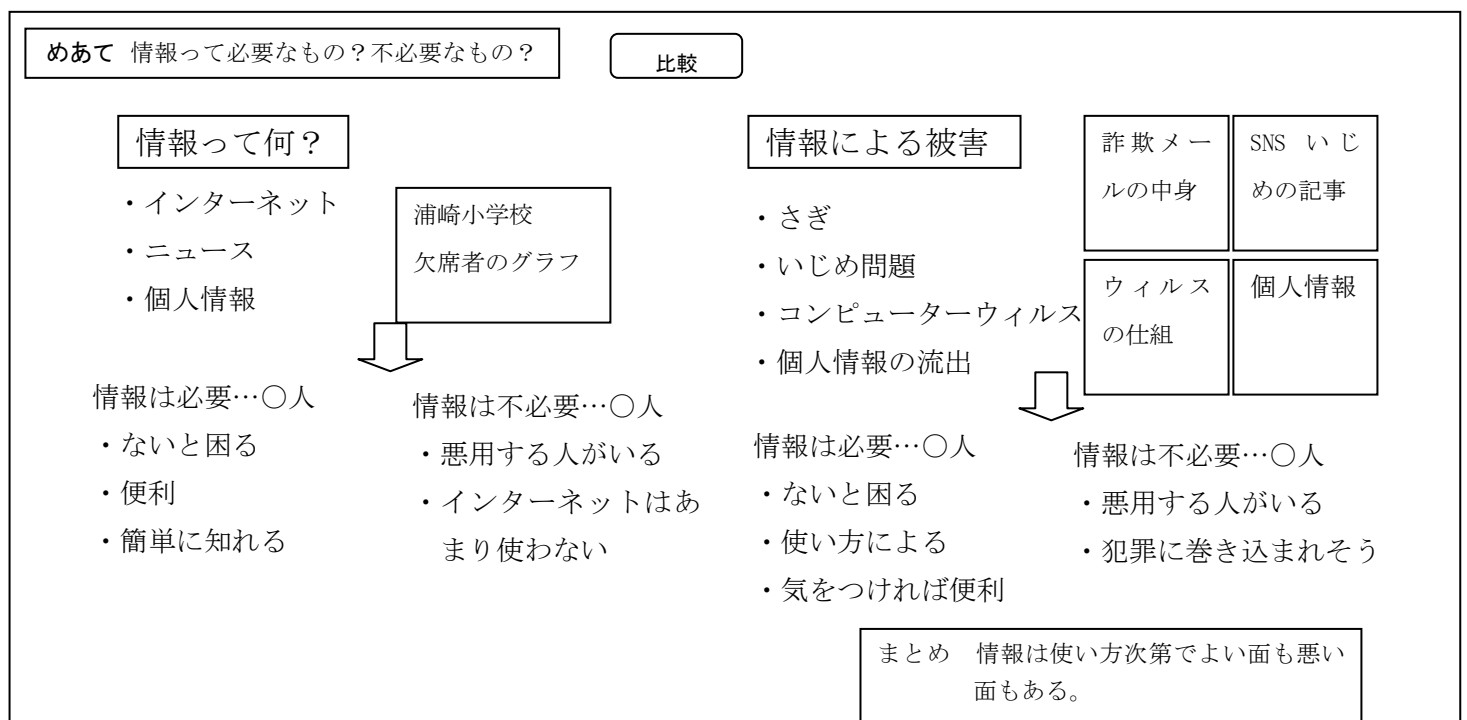
情報が人に与える影響に着目し、良い影響か、悪い影響か分類することができる。

学習過程（1時間目/全6時）

	学習活動（○主な活動◎主発問・児童の反応）	・指導上の留意点 ※準備物 ○評価
見通し	1 学習課題をつかみ、見通しをもつ。 ○「尾道はもう元気じゃけえ！」の動画を見て、何を感じたか交流をする。 ◎動画を見て、どんな印象を受けた？ ・おいしそう ・おなかすいた ・行ってみたいな ○情報とは何なのか知っていることを発表する。 ◎情報ってどんなもの？身の回りにはどんな情報がある？ ・インターネットで知ることができる ・知るもの ・ニュース	・このような情報は、得ることにより、人の気持ちに影響を与えるといった程度にとどめておく。 ※パソコン ・月ごとの欠席者数のグラフを出し、分析させることでデータも情報であることに気付かせる。 ※浦崎小学校の1月から11月までの欠席者数の棒グラフ ・自己に関わることも個人情報であることを理解させる。 ・おそらく情報について良い面しか意見は出ないだろうが、悪い面も出れば、児童に分類させる。 ◇主体的に学習に取り組むための工夫◇ ・身近なデータを出すことで、情報に興味をもつことができるようにする。
	情報って必要なもの？不必要なもの？	
活用	2 情報の要否について1回目の意思決定を行う。 ・必要だと思います。情報がないといろいろなことを知ることができないからです。 ・必要だと思います。インターネットができないと困る人もいますからです。 3 意見を交流する。	○情報の要否について自分なりの考えをもつことができる。 【ノート】 ・おそらく大半が必要というので、情報はよいものだという方向性でまとめていく。

深化	4 情報による被害について学ぶ。 ◎実は情報を悪用している人もいます。知っている人はいますか？ ・個人情報がつて話は聞いたことある。 ・ネットでいじめがあると聞いてます。 5 情報の要否について2回目の意思決定を行う。 ・悪いことがあったとしても、情報がないと生活していけないから必要。 ・ちゃんとした使い方をしていけばいいから、情報は必要。	・いじめに関する新聞記事や、知り合いと偽って送られてくるメール、コンピューターウイルス等に関する資料を提示し、説明する。 ※詐欺メールの画像、SNS によるいじめに関する新聞記事、コンピューターウイルスの仕組の図、個人情報の流出の図 ○情報の要否について自分なりの考えをもつことができる。 【ノート】 ・使い方について取り上げている児童がいれば、その児童の考えから、次時で使い方について考えるということにつなげる。
ふり 返り	6 振り返りをする。 ・自己の生活の中でこんなにたくさん情報があるとは思いませんでした。 ・次の時間に、実際に情報の使い方についてどんな練習をするのか楽しみです。	・ふりかえりポイントを提示し、ただの学習のまとめにならないよう指導する。

情報は使い方次第でよい面も悪い面もある。



本時の目標：情報モラル・メディアリテラシーについて理解し、適切な情報の活用の仕方を身に付け、情報の取り扱い時には正しく判断することができる。

【社会的な思考力・判断力・表現力】

○社会的な見方・考え方

様々な情報の活用と人との関係に着目し、これからの情報の活用の仕方について考えることができる。

学習過程（2・3時間目/全6時）

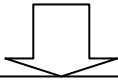
	学習活動（○主な活動◎主発問・児童の反応）	・指導上の留意点 ※準備物 ○評価
見 通 し	1 学習課題をつかみ、見通しをもつ。 ○インターネットを使い、何ができるのか想起する。 ・ 検索 ・ ホームページを見る、作る ・ LINE ・ ゲーム ◎こんな便利なのに、なぜ犯罪が起こるのだろうか？ インターネットは便利なのに、なぜ犯罪が起こるのだろうか。	・ 今までの調べ学習や、家での様子を想起させる。 ・ あまり出てこないようであれば、パソコン以外にもインターネットにつながっているものを紹介し、連想できるようにする。（ゲーム機、携帯電話、レジスター、電子レンジ等）
活 用	2 実際にパソコンを操作し、インターネット上の犯罪を模擬体験する。 ○教師が仕掛けた情報に関する犯罪等を体験する。 ・ きちんと確認しないと、大変なことになるんだ。 ・ 知らない間にこんなことが起こるんだ。 ○実際に調べ物をして、信頼してよい所なのか考える。 ・ これはNHKの情報だから信用できるかな。 ・ これは個人の人の意見だから、他のも参考にしないといけな。 3 なぜこのような犯罪が起こるのか考える。 ・ インターネットはだれが見ているか分からず、悪用しようと思う人がいる。 ・ 犯罪をしている人も、だれか分からないから、犯罪が起きやすい。 ・ 使っている人も知らないことが多いので、犯罪に巻き込まれても分からない。 ・ たくさんのデータが価値を生む。	・ メインパソコンの遠隔操作等で児童に情報の抜き取りや、ウィルス、掲示板の書き込み等を疑似体験させる。 ◇主体的に学習に取り組むための工夫◇ ・ 個人情報の流出、掲示板等でのいじめ、偽情報、ウィルス等を疑似体験させることで、実感をもって情報モラル・メディアリテラシーの大切さを感じることができるようにする。 ・ 体験をもとに、情報を活用するための知識や技能が必要だということに気付かせる。 ・ 多くのデータを関連付けて分析することで商品の入荷量や販売量を予測できるなど、新たな価値を生み出すため、その価値に注目した犯罪が起きていることを理解させる。【※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編 p.91 に詳しい】 ○情報の正しい活用の仕方について考えることができる。【ノート】
深 化	4 情報モラル・メディアリテラシーを学ぶ。 ○教科書（東京書籍）p.95, p.97を基に学ぶ。 情報を扱うときには、犯罪から身を守るために、正しいメディアリテラシーを身に付け、情報モラルをもって活用する。	・ それぞれの項目が、本時に体験したこととどのようなつながりがあるかまで考えさせる。

ふり 返 り	6 振り返りをする。 ・インターネットの情報を信じていたが、嘘の情報もあることを知り，これからは本当か，嘘なのか見極めながら使っていきたい。	・ふりかえりポイントを提示し，今までの自己の情報の活用の仕方と照らし合わせながら振り返らせる。
--------------	---	---

めあて インターネットは便利なのになぜ犯罪は起こるのだろう？

インターネットでできる事

- ・ 検索
- ・ ホームページを見る・つくる
- ・ LINE
- ・ ゲーム



便利だけど犯罪が多い。なぜ？

- ・ インターネットは相手が分からないから，犯罪が起きやすい。
- ・ 知らない間に起きてしまうので，いつの間にか巻き込まれてしまう。
- ・ もし巻き込まれてもどうすればいいかわからない。

体験した感想

- ・ きちんと確認しないと…
- ・ 知らない間に…
- ・ こわい

情報モラル

- ・ 事実と違うことを書き込まない
- ・ 勝手にコピーしない
- ・ 使う時間を決める
- ・ 相談する
- ・ ダウンロードには気を付ける
- ・ 迷惑メールは無視

メディアリテラシー

- ・ 必要な情報化考える
- ・ 情報をそのまま受け取らない
- ・ 自分の言葉に置き換えてまとめる
- ・ メール の書き方はていねいに

まとめ 情報を扱うときは，犯罪から身を守るために，正しいメディアリテラシーを身に付け，情報モラルをもって活用する

本時の目標：報道の画像や映像から、人々にどのような影響が出ているのか考えたり、聞き取ったりすることができる。

【観察・資料活用の技能】

○社会的な見方・考え方

画像や映像による人々への影響について着目し、良い面と悪い面を比較し、報道の可否について考える。

学習過程（４時間目/全６時）

	学習活動（○主な活動◎主発問・児童の反応）	・指導上の留意点 ※準備物 ○評価
見 通 し	1 学習課題をつかみ、見通しをもつ。 ○平成30年7月豪雨の災害時のニュースを見て、ニュースが流れることにより、どんな影響があったか考える。 ◎なぜ、こんなにいつも情報が流されていたのだろうか。 - 被害状況を知ってもらい、ボランティアに来てもらうため。 - 被災者がどこで、どんな風に支援を受けることができるか知るため。 ○2017年と2018年のレンタサイクルの数の差を見て、なぜ減ったのか考える。 ◎建物や道路だけでなく、レンタサイクル事業も被害を受けています。なぜ、こんな被害が出ていると思いますか？ - 被害があったから自転車が走れなかったんじゃないかな？ - 危険だと思ったんじゃない？ ◇主体的に学習に取り組むための工夫◇ - 前時と違い、正しい情報なのに、被害が出るという矛盾を感じさせることで、追究する意欲をもつことができるようにする。	・L字放送の画像も見せ、常に災害に関する放送が流れていたことを想起させる。 ※災害当時のニュース映像、L字放送の画像 ※2017年と2018年のレンタサイクルの数を表した棒グラフ - 児童の考えとして、災害に合い、道路が通れなくなったから等、災害によるものだという考えに傾くと考えられるため、豪雨災害の1週間後にはしまなみ海道のブルーライン（自転車が走る道）は復旧していたということを知らせる。 - なぜ観光客は危険だと思ったのか理由も考えさせることにより、報道と観光との関係について気付かせる。 ○報道が人の生活に及ぼす良い影響について、映像や資料から読み取ることができる。 【ノート】
豪雨災害の時の報道は必要だったのだろうか。		
活 用	2 必要だと思う理由を発表させる。 - 必要だと思います。理由は、報道がないと、どこで何をしているか分からないし、必要な情報を手に入れることができないと思うからです。 - 必要だと思います。理由は、住む家がない人はどうすればいいか分からないからです。 3 風評被害について学ぶ。 ○尾道観光協会の方の話の動画を見て、観光産業はどんな被害だったかまとめる。 - 飲食店、ホテルが営業できないので観光客が減った。 - 商店街も人が少ない。 - 風評被害という。 ○風評被害についてまとめる。 「風評被害とは、本当は大丈夫なのに、災害などが報道されることにより、人が危険だと思い、観光をやめて経済的に被害を受けること」	「生活物資の入手に関する情報」「住居に関する情報」「ライフラインに関する情報」「交通に関する情報」「経済的な支援に関する情報」「医療や福祉サービスに関する情報」に分類しながら板書する ・動画には出てこなかった具体例（ロープウェイ、駐車場利用者半分以上、今なお、8割程度にしか戻っていない。）も挙げる。 ※パソコン、尾道観光協会の方の写真 ○報道が人の生活に及ぼす悪い影響について、映像から読み取ることができる。 【ノート】

本時の目標：それぞれの立場から、情報の取り扱い（情報収集、情報の比較等）について考えることができる。
【社会的な思考力・判断力・表現力】

○社会的な見方・考え方

それぞれの人の立場に着目し，その人の生活と情報を関連付けて，情報の取り扱いについて考える。

学習過程（5時間目/全6時）

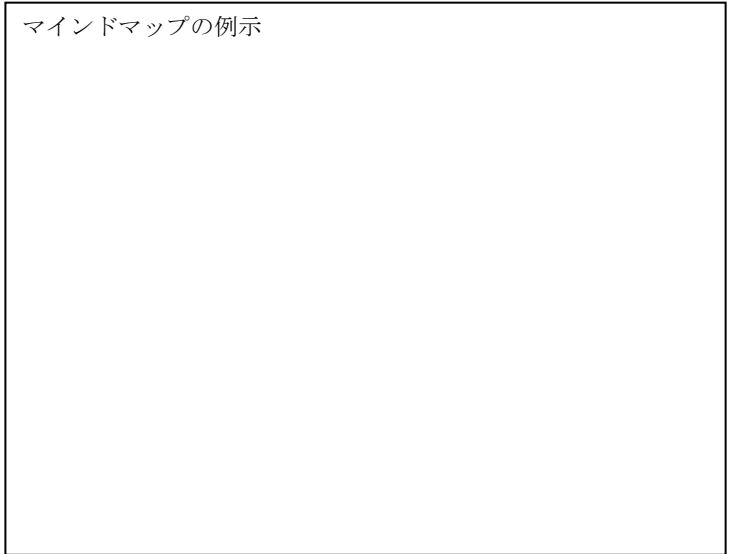
	学習活動（○主な活動◎主発問・児童の反応）	・指導上の留意点 ※準備物 ○評価
見 通 し	1 前時を想起し，本時の学習の見通しをもつ。	・本時では，各々の立場に立って，報道の要否について考えるという見通しを児童にもたせる。
	豪雨災害の報道は本当に必要だったのだろうか，それぞれの立場になって考えよう。	
活 用	2 それぞれの立場になり，マインドマップを作成する。 ○自己の立場が決められ，それぞれの立場の説明カードを読み，自己の立場の理解を深める。 ○マインドマップの続きを書く。	※マインドマップの例拡大図 ・児童の立場は教師が割り振り，あらかじめどんな立場かは説明カードにより，設定しておく。 ◇主体的に学習に取り組むための工夫◇ ・それぞれの児童に立場を割り振ることにより，人に頼ることなく，自力で考えなければならないという責任をもたせる。 ・サブテーマまでは教師側で書いておき，その立場が重要視している視点をはっきりさせておく。
深 化	3 マインドマップを基に，豪雨災害の報道の要否について考える。 ◎自分の立場から考えて，その人にとって今回の報道は必要なものだったのか不必要なものだったのか，考えましょう。 ・必要だったと思います。理由は，災害の情報がないと，被災者は生活するために必要な情報を知ることができないからです。 ・必要ではないと思います。今回の報道のせいで，観光業は被害が出て，生活ができなくなってしまうかもしれないからです。 ○同じ立場の人たちと考えを交流する。	・それぞれの項目が，本時に体験したこととどのようなつながりがあるかまで考えさせる。 ○それぞれの立場から，情報の取り扱い方について理由を明確にし，考えることができる。 【ノート】
ふ り 返 り	6 次時の予告をする。 ◎次の時間は先ほど考えた意見を基に，話し合いをし，「報道は必要か」ということについて班で意見をまとめてもらいます。	・次時でこの問題に決着をつけることを告げ，次時への意欲をもたせる。

めあて 豪雨災害の報道は本当に必要だったのだろうか，それぞれの立場になって考えよう。

1. テーマからサブテーマ，サブ・サブテーマまでつなげる
2. 自分の立場になりきり続きを書く
3. 1回目の考えを書く

※自分の立場の人だったらどう考えるか想像しながら書く

マインドマップの例示



本時の目標：対話を通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させているとともに、適切な取り扱いが必要であることを理解することができる。

【社会的事象についての知識・理解】

○社会的な見方・考え方

情報に対する様々な立場からの考え方に着目し、情報の取り扱いについて、自己の生活と関連付けて考える。

学習過程（6時間目/全6時）

	学習活動（○主な活動◎主発問・児童の反応）	・指導上の留意点 ※準備物 ○評価
見通し	1 学習課題をつかみ、見通しをもつ。 ○前時のマインドマップ、自己の考えを見直し、本時の見通しをもつ。 ◎今日は話し合いをします。報道は必要かどうか話し合い、解決をしていきましょう。	◇主体的に学習に取り組むための工夫◇ ・本時ですぐに話し合いができるよう、前時までに自己の考えを理由込みで考えておく。
	豪雨災害の報道は必要か話し合い、解決しよう。	
活用	2 「豪雨災害の報道は必要か」について4つの立場から話し合う。 ※図2参照 ○班の中で「尾道市民の方」「被災者の方」「飲食店の方」「お土産屋の方」の立場に分かれて、話し合いをする。 ○マインドマップに友だちの意見を書き加える。 ◎友だちの意見を受けて、なるほど、とか、その考え方は自分の立場には必要だ、と思ったことをマインドマップに書き加えましょう。 ○マインドマップを基に、もう一度報道の要否について考える。 ○班で意見をまとめる。	・それぞれの立場になりきって話をする事ができているか机間指導を行う。 ・分かりにくそうにしている児童には声をかけ、もう一度違う立場の人の話を聞くよう促す。 ・マインドマップを基に考えを形成しているか机間指導を行う。 ・一つの意見に引っ張られることなく、他の立場から見ても、合意することができる意見かどうか、児童に確認させる。
深化	3 班でまとめた意見を発表し、それぞれの意見を比較し、まとめる。 ◎それぞれの班のまとめを比べると、共通点は何でしょう。 ・情報で被害が出る ・生活のために情報はいる ・違う情報を手に入れ、比べる ・その情報が正しいかどうか調べる。 4 尾道観光協会の方の話の映像を見て、実際どのように対応したのか知る。 ○「尾道はもう元気じゃけえ！」の動画の意味を知り、改めて動画を見て感想を交流する。	・それぞれの項目が、本時に体験したこととどのようなつながりがあるかまで考えさせる。 ・観光協会の方の、産業を活性化させたいという思いと、その手段として、情報の発信を用いたことに気付かせ、情報は、産業を発展させるし、衰退もさせることを理解させる。

ふり 返り	5 本単元のまとめを書く。 ○「情報や、情報を伝える技術を使うと、」から書き始めさせ、「産業」「生活」というキーワードを用いて書かせる。 ◎つまり、情報って人の生活にどのような影響を与え、どのように使っていくべきものなのでしょうか。 ・「情報や、情報を伝える技術を使うと、」情報の使い方によっては産業が被害を受けることもあるし、利益が出ることもあるし、生活が便利になったり、犯罪にあたりすることがあるから、使い方に気を付けなければならない。 ・「情報や、情報を伝える技術を使うと、」産業に被害が出て、生活が困るので、使い方には気を付けなければならない。 ・「情報や、情報を伝える技術を使うと、」産業や生活が楽になり、被害を受けることもある。	○「産業の発展」「国民生活の向上」「適切な取り扱い」の三つの観点から情報についてのまとめをすることができている。 【ノート】
----------	---	--

めあて 豪雨災害の報道は必要か話し合い、解決しよう。

授業の流れ

- 1 自分の立場になりきり話し合いをする
- 2 マインドマップに友だちの立場のことを書き込む
- 3 友だちの立場の書き込みを見て、自分の考えに取り入れることができるものに○を付ける
- 4 マインドマップを見て、話し合い後の考えの場所に自分の考えを書く
- 5 自分の立場になりきり話し合いをし、班ごとに解決策を考える

1班

被災者には、報道が必要だし、観光業は報道だけでなく、他の情報を使いアピールをすればいいから、報道は必要。

3班

観光業が生活できなくなると困るので、報道はやめて、被災者には回覧板などで情報を提供すればよい。

5班

報道によって被害が出たり、助かったりする人がいるならば、両方の報道をするようお願いをする、または決まりをつくる。

2班

生活するには情報が必要だし、観光業は、旅番組とかでアピールしていけば、観光客もやってきそう。

4班

報道がないとボランティアさんが来てくれないから、報道は続けて、ボランティアさんについて観光をしてもらえばいい。

6班

一番は、生活できない人を助けなければいけないから、報道するが、ある程度したら、観光業を助けるための報道もするべき。

共通点

被災者の生活には情報が必要
→生活に役立つ
観光業も情報発信したらよい
→観光業が発展
他の情報を取り入れる
→複数の情報を比べ判断する

まとめ

(情報とはどういうもの)
「産業」「生活」「情報」
情報の活用は、様々な産業を発展させ、国民の生活を向上させていて、適切な扱いが必要である。